

## 調査・研修報告書（会派個人用）

会派名：地域政党きずな庄原議員団

報告者：五島 誠

実施場所：日本青年館	実施日：令和3年10月27日、28日
<p><b>■目的・課題・問題事項（調査・研修に先立っての思いや本市の現状 など）</b>  第26回清溪セミナー</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講演 自治体議会の政策制御</li> <li>・パネルディスカッション 議会は「わがまちの政策をよりよくする」ことができるか</li> <li>・講演 問われる自治体と国との関係</li> <li>・講演 コロナ禍から見えてきた国政と地方自治体の新たな役割</li> <li>・講演 僕はミドリムシで世界を救うことに決めました</li> <li>・講演 持続可能な地域社会と地方自治</li> </ul>	
<p><b>■参考とすべき事項</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民にとって議会はなにものか？議員とはなにものか？何をする人なのか？この問いについて議員間で意識統一ができていない。</li> <li>・（政策とは、目的と手段の複合物。）市民からの信託は理念や空想ではなく、政策・制度という実体を持つ成果物。何が必要不可欠か、減らす傾向の現在。</li> <li>・議会による政策・制度の制御を可視化することが必要。議会改革の難所「議会報告会」「議員間討議」決断から遠いタイミングであればあるほど自由な議論ができる。一般質問、委員会での調査、市民との話し合い。何のため、誰のための話し合いか。議会の成果という実績と周知の積み重ねで、「政策議会」の議会像と議員像の更新を。</li> <li>・行政が正しいという前提がおかしい。議会は追認機構？面子にこだわる市長？勝ち？負け？</li> <li>・協働＝都合よく協力、助力してくれることとなっていないか。</li> </ul>	
<p><b>■提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきか など）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一般質問検討会のようなものを行っていくのもいいかもしれない。</li> <li>・このような時勢において地方議会の役割、議員に求められるものも変容している。様々な機会を捉えて議論する場を作っていくことが求められる。更なる議員間討議の必要性を感じた。</li> <li>・大学発ベンチャーの取り組みを。</li> <li>・コロナ禍において ICT を用いた議会活動もまだまだ出来ることがあるように感じた。オンライン会議、現地調査、災害有事への備え、広報・広聴、ペーパーレスと同時に業務削減・経費削減も考えなければいけない。先行市の例から、なぜできたかと問えば、議長の決断力、そのスピード感、リーダーシップと返ってきた。まずはやってみようの気持ちでどんどん取り入れていくことを申し上げ、報告とする。</li> </ul>	

※ 調査・研修終了後、一週間以内に会派事務局へ提出してください。

## 調査・研修報告書（会派個人用）

会派名： 地域政党きずな庄原議員団

報告者： 林 高正

㊟

実施場所：東京都 日本青年館 第26回 清溪セミナー	実施日：令和3年10月27日～28日
<p><b>■目的・課題・問題事項（調査・研修に先立っての思いや本市の現状 など）</b></p> <p>今回のセミナーは実際の議会で活用できる、庄原市議会でも講義していただいた法政大学法学部教授の土山希美枝氏による「自治体議会の政策制御」の講義。そして土山先生がコーディネーターを務められるパネルディスカッション「議会は『わがまちの政策をよりよくする』ことができる」の連続した講義による議会の役割、議会事務局の役割について研修することが目的です。特に今回は、パネリストの茨城県取手市議会事務局次長の岩崎氏の議会改革についての発表に興味津々です。</p> <p>そして、(株)ユーグレナ代表取締役社長 出雲充氏のみドリムシに関する講義に期待しています。</p>	
<p><b>■参考とすべき事項</b></p> <p>土山先生が、自治体とは、市民が必要不可欠とする(政策・制度)を整備するための機構であると講義の冒頭に言われましたが、「市民にとって議会とはなにものか」という政策議会とはどんなものなのかという議論は、議会の役割とは何かを私たちに突き付けられたように思います。つまり、政策とは、課題があって解決するという目的に向かって設定した手段を講じることであり、政策には正解がないが、最終的には議会が決める。つまり、行政は直接制御であるが、議会は間接制御であり、行政の追認機関ではない。そのことを市民と議会を繋ぐものは、共有としての広報であり、市民参加としての広聴であるというものです。「心が折れる議会報告会」とも言われましたが、今回から庄原市議会は「市民と語る会」に衣替えしますが、市民と議会の「話し合い」、話し合う「争点」と「機会」を設計する自由度の高さ、「話し合う」ことそのものを目的にできる、魅力の強さを挙げられました。</p>	
<p><b>■提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきか など）</b></p> <p>庄原市議会は改選で多くの新人議員が当選されましたので、議会の役割等について土山先生の講義を受講されてはどうかと思います。それも1回ぼっきりではなく、半年に1回程度を複数年開催した方が良いのではないのでしょうか。議会として予算化が難しいのなら、政務活動費を活用することも可能と考えます。そんな活動というか、議員・議会の活性化を仕掛けているのが冒頭で紹介した取手市議会事務局次長の岩崎さんです。取手市議会と同議会事務局は、議会改革度ランキング2020で全国総合第1位に輝いていますし、マニフェスト大賞2021で優秀マニフェスト推進賞を受賞されています。彼は、議会事務局の上に議員があるのではなく、議員と議会事務局は横並びであるべきと力説されましたが正にその通りであり、庄原市議会事務局は21番目の庄原市議会議員です。</p> <p>人は良く、「諦めない」という言葉を使いますが、大抵は2度3度の失敗で諦めてしまいます。(株)ユーグレナの出雲社長は、「夢と希望とチャンス」を胸にみドリムシの培養に成功し、どの会社も見向きもしなかったみドリムシの事業を成功できたのは「500社に断られても諦めなかった」からだそうです。しかし上には上がいるもので、LEDを発明された天野博士は1500回以上の失敗を乗り越えて成功されたと出雲社長はおっしゃっていました。</p>	

※ 調査・研修終了後、一週間以内に会派事務局へ提出してください。

令和3年11月4日

## 調査・研修報告書（会派個人用）

報告者：徳永 泰臣 ㊦

実施場所：東京都 日本青年会館	実施日：令和3年10月27日～28日
<b>■目的・課題・問題事項</b> 講義Ⅰとして、講演「自治体議会の政策制御」と題して法政大学土山希美枝法学部教授よりあり、その後土山教授をコーディネーターとして、「議会はわがまちの政策をよりよくすることができるか」と題して3名のパネリストの事例紹介をされながらのパネルディスカッションが行われた。講義Ⅲとして演題「問われる自治体と国との関係」と題して前湖南市長谷畑英吾氏による講演が行われた。講義Ⅳとして講演「コロナ禍から見てきた国政と地方自治の新たな役割」と題して、白鷗大学名誉教授福岡政行氏による講演があった。講義Ⅴとして講演「僕はミドリムシで世界を救うことに決めました」と題し（株）ユージェレナ代表取締役社長の出雲充氏の講演があった。	
<b>■参考とすべき事項</b> 特に本市へ何回もおいでいただいた法政大学土山教授の講演では、自治体の政策制御と題して ①「議会とはなにものか」 議会基本条例の制定をしたがその後の議会報告会を起点とした議会から市長への政策提案、議員間討議、心が折れる議会報告会、盛り上がらない議員会討議になっていないか。 ②「市民にとって議会とはなにものか」 なぜ「政策議会」としての機能が発揮されていないのか。構造としての「行政の正しさ」を追認する機構としての議会。 ③「市民と議会をつなぐもの」 議会基本条例の「評価」との比較で考える議会が「信頼を得る」「信託/負託に応える」ということはどういうことか。わがまちの政策・制度を、広場での議論と決断によって「よい」状態にすること。「わがまちの政策・制度は議会がいるから行政だけより、よい状態である」という市民からの評価を得ること、そのためには実績をあげ周知するという活動を積み重ねていくしかない。市民と議会をつなぐものとしての、広報・広聴であり、市民と共有できるものはわが町の課題と議員共有としての広報、市民参加としての広聴 ④議会は「わが町をよりよくする」ことができるか。 議会の「成果主義」議会による制御を可視化する。「心が折れる議会報告会」「盛り上がらない議員間討議」を乗り越えられるか。	
<b>■提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきか など）</b> （株）ユージェレナ社長は広島県呉市出身の方で、東京農業大学在学中にバングラディッシュに行き、アジア最貧国の一つであるバングラディッシュで栄養失調で苦しむ子供たちを目のあたりにし、栄養豊富な藻類であるユージェレナの研究にかかわりミドリムシの大量培養に成功した。それを製品化するためその研究成果を多くの大手企業に持ち込んだが、見向きもされなかったが、唯一伊藤忠商事だけが話を聞いてくれ協力してくれた。それからこの事業が始まった。そうした先見的な目線が本市でも必要ではないだろうか。	

※ 調査・研修終了後、一週間以内に会派事務局へ提出してください。

## 調査・研修報告書（会派個人用）

会派名：地域政党きずな庄原議員団

報告者： 國利 知史

実施場所：日本青年館ホテル（リモート）	実施日：令和3年10月27日～28日
<b>■目的・課題・問題事項（調査・研修に先立っての思いや本市の現状 など）</b> 個人的な目的としては、庄原市だけではなく、他地域の市政がどのような現状なのか、全国的な流れ、市政に対する考え方を知ることが目的とする。 他地域の議員との意見交換も目的の一つであったが、事情で現地参加できず、リモート参加となった。	
<b>■参考とすべき事項</b> ◎議会改革により議会の活動を市民に知ってもらうための活動はもちろん、市民の意見を吸い上げ政策へ反映させていくための議員間討議の充実が必要である。 ◎議員と市民とが話し合う機会を作ることが必要で、誰のための何のための話し合いか考える。行政が正しいという前提を払拭し、多方面から市政を見ていくことが重要。 ◎議会発の政策能力を向上していく必要がある。そのために専門家との連携、予算確保はどうするのか、党派を超えられるかなどの課題を解決していく必要がある。 ◎議会のオンライン化について、感染症対策、災害対応、ペーパーレス化などの経費削減、職員の業務量削減など参考とすべき点が多いと感じた。 ◎持続可能な地域社会と地方自治を行って行くためにはカーボンニュートラルの考え方が必要である。 ◎誰もが気にもとめなかったユーグレナという企業がユニコーン企業に成長したのは、開発者の思いの強さと、先見性を持って可能性を信じた企業とのマッチングで生まれた。	
<b>■提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきか など）</b> ◎市民の意見を吸い上げ、また市民との対話の場を作るという意味で、「市民と語る会」の果たす役割は大きいと感じた。そこで吸い上げた意見を市政にどのように反映して行くかが課題と感じる。 ◎タブレットの利用を急ぐ必要があると感じた。また、それをどのように効率的に利用するかが課題として挙げられる。 ◎カーボンニュートラルの流れに乗り遅れないことが今後の庄原市には必要と感じた。庄原市においては、市域のほとんどを山林が占める事を考慮して、木質バイオマス発電が必要であると改めて感じた。 ◎自治体として、可能性のある事業、先見性のある事業にはその可能性を信じてサポートして行くことが必要である。県立広島大学や庄原実業高校、農業技術大学校などを有する庄原市にはその可能性を秘めた人材がいると思う。その人材が市外、県外に流出することのないようにサポートして行くことが必要と感じた。	

※ 調査・研修終了後、一週間以内に会派事務局へ提出してください。